

2023 年『資本論』深掘り講座(第 11 回)ニュース

—第 3 巻の真価を探る—

前回の講義内容

■ワンポイント—中国山東省・共産主義村モデル

中国山東省の人口 3 万人あまりの農村が「全国文明村」として脚光を浴びています。村経営を担う 20 代、30 代の若者が新しい「企業グループ」を立ち上げ大きく成功していると言います。その原理は「共産主義」をモデルにしています。すなわち利益 (m 部分) の 70% を村民・従業員に配分し、残り 30% をグループの営業資金に回すと言う。株式は村民全員に配分すると言います。ここでは、資本家は不要であり、社会の再生産を念頭に労働者と住民が統治に関与する新しい共同体が実現しているのです。

■利子と企業者利得とへの利潤の分裂

資本は、剰余価値を生む価値の運動体ですが、剰余価値は平均利潤へと転化していきます。さらに「利子生み資本」の登場により「利子」と「企業者利得」へと利潤は分裂していきます。「利子生み資本」は貨幣資本家として利子という果実を取得し、機能資本家（産業資本と商業資本）は企業者利得という果実を取得することになります。両者の機能は固定化され資本家の意識も支配することになります。貨幣資本家は貸付に関与するだけで、生産過程から全く遊離し社会に寄生するという実体が明らかにされます。一方、機能資本家も企業者利得は、監督労働にたいする「監督賃金」にすぎないのだという意識あたえます。その監督労働も一般の労働者が担うことが常態化すると、機能資本家も生産過程では全く不要になってくるのです。協同組合工場の実践はそのことを証明しています。資本家の歴史的役割がすでに喪失しているのです。

本日の学習 第 5 篇「利子生み資本」(3) 第 29 章～

時間割

講義 I 13:00～14:00 (60 分)

講義 II 14:10～15:10 (60 分)

講義 III 15:20～16:20 (60 分)

質疑応答 16:30～16:55 (25 分)

片付け終了 16:55～17:00

■終了後の質問感想についてはメールでお願いします。 mitioT@outlook.jp

次回の予定

■第 12 回講座 12 月 3 日 (日) 12:30～16:30 ■第 6 篇「地代論」

■エデュカス東京地下会議室 (JR 市ヶ谷駅 有楽町線麴町駅)

ご案内

『資本論』第一巻講座第 3 回

■講座 11 月 19 日 (日) 13:00～17:00 ■会場: エデュカス東京

■講師 村上 裕先生 ■内容: 第 2 章「交換過程」第 3 章「貨幣流通」

「Das kapital を読む会」

■11 月 25 日 (土) 12:30～16:30 ■会場: 東京駅八重洲俱樂部第 7 会議室

■内容 第 2 巻「資本循環論」 ■講師 宮川 彰先生

以上